



# 危険信号?

## 切な土づくり

今年も「うまい米」の量産をめざして農作業が始まり、農家にとっては忙しい季節になりました。

市内の、米穀売り渡し農家1戸当りの水田耕作面積は1.7畝、県下でも大規模経営層に位置づけられ、農業所得率、生産性も全国、県の平均水準を上まわっています。

しかしながら、47年ころから反収量が年々下降ぎみで、食糧基地をめざす本市の農業にとっては、大きな問題となっています。



昨年、本市の総生産量は二万四千九百トン。四十八年に比べ、四百トンの減収。一反当りの収量も昨年より少なく、県下の第九位となっています。

また、米質は上位等級米の割合が全体の五十五・一％と、大きく伸びていますが、対岸町村に比べると低く、本市の米質が悪いことを示しています。とくに黒崎町では、九十三・三％までが、上位等級米という効率のよい、米づくりを行なっています。

このようなことから、本市の稲作も、生産性を上げ、あわせて米質の改善方法を、考えて行かなければならないときに、きているようです。

### 反収は県下の第九位

### 生産性を上げるために



生産性を上げるためには、まず、優良な農地をできる限りつぶさないことが大切です。

昨年一年間で転用された農地は四十・四四畝。過去五年間で百二十六畝もの美田が埋め立てられています。

いまひとつは、肥えた土づくりです。ここ数年、生産力の低下は、いろいろな問題もあるようですが、①兼業農家の増加による、経営の粗放化②生わらの水田還元が、主な原因とされています。

とくに、生わら還元の影響は大きく、排水の悪い水田では全量施用は有効でなく、肥えた土をつくるには、完全のたい肥施用が最も望ましい方法です。

市でも、これらの問題解決の糸口になればと、今年度から新へ

### 米づくり表彰 努力が実り

うまい米量産推進大会で、四十九年度の良質多収農家などが表彰されました。

個人、団体の受賞者は、次のとおりです。(一位のみ)

▽個人の部 小田信雄(榑筒 写真)

▽団体の部 丸沼農事研究会



### 汚泥浄化槽を使用している農家の皆さんへ

最近、豚舎の汚水処理に「活性汚泥浄化槽」を使用している農家が増えています。

せっかく良い設備をしても、管理が悪ければ汚水処理には役に立ちません。

「希釈水は少ないか」「曝気ポンプの電源は切れていないか」などの点検に心がけ、たまには余分な汚泥の引き抜きも行なってください。

### 今日の納税

▽軽自動車税 (全期) 納期限は、五月三十一日です。

# 米づくり

## 見直そう大



新たに地力保全対策事業として「肥えた豊かな水田づくり運動」を行ないます。事業内容は―

**地力の調査** 昭和二十九年から三十六年まで、市内全域で行なった地方調査の結果をもとにして、今一度、重点地域を選んで調査を行ない、地力の変化を調べます。

**たい肥のききめをみる** 試験田を農家に委託して有機質連用試験や施用限度試験を行ない、実践活動を通して、肥えた土づくり運動を進めます。

**技術対策** 栽培技術のむずかしい、コンヒカリなどの上質品種の技術実践田を設け、農家の技術向上と上位等級米の増収をめざします。

### 年金コーナー



国民年金の保険料は、納期限(六、九、十二、三月の各月末日)の翌日から二年過ぎても、納めないと時効になり、保険料を納めることができなくなりますが、

十年十二月三十一日まで、設けられています。四十七年度以前に、保険料を納めないと時効にかかり、その期間の保険料を納めていない人は、この機会に納めるようにしてください。

### あなたを助ける特別納付

納めてもらう方法もあります。詳しいことは年金係(電話二一〇二〇三)へ、おたずねください。



いわゆる幕藩体制とは室町時代以来、徐々に形成され、徳川氏によって完成されたものである。これはおのおの藩主を置き、統治機構を管掌させたもの。

また、軍事、経済の要地は直轄領や普代領の管掌となし、互いにけん制させるものであった。このような考え方は古代中国の漢王朝(約二千二百年前)が採用した政策にその範をとるものであると思われ。

### 白根のおいたち

(8)

紫式部ころからすでに、我が国のインテリ層が精読した史記に「高帝は封じて子弟を王とす。地は犬牙もて相い制す。これいわゆる盤石の宗なり」また「漢の郡(直轄領)は八百九十なり。形は諸侯(大名)の間に錯り犬牙もて相い臨み、そのあい塞、地利をとる。

このような社会状況は為政者のみならず、インテリの大勢も認めていたわけだ。白根にも明和八年(一七七七)に木下素洲なる儒者が江戸遊学より帰り、桜町で子弟を教えたという。

同氏は安永四年(一七七五)に、孔子が採録集したとされる詩経の考證を試み「詩経講録」八冊の力作を脱稿している。

その末尾に、「志を同じくする士が、もしこれを愛することあれば、まずその経の愛敬する所、怨愛する所をたずね、その辞の推興、延けつを弁じ、殷勤、想像しもつてその情の思に邪なかるべきを請う」と記している。